

## 平成 26 年度 第 1 回土木計画学研究委員会幹事会 議事録

日時：平成 26 年 4 月 19 日（土）13:30～16:40

場所：スクワール麴町 5F 百合の間

### ■出席者

委員長：谷口栄一（京都大学）

副委員長：福田敦（日本大学），秋山孝正（関西大学）

幹事長：多々納裕一（京都大学）

学術小委員長：屋井鉄雄（東京工業大学）

委員兼幹事：金子雄一郎（日本大），真田純子（徳島大），嶋本寛（宮崎大），有村幹治（室蘭工大），井料隆雅（神戸大），藤見俊夫（熊本大），福本潤也（東北大），福田大輔（東工大）

### ■資料

[資料 1] 平成 25 年度 第 3 回土木計画学研究委員会幹事会 議事録案

[資料 2-1] 活動評価・中期目標対応

[資料 2-2] 活動中の小委員会・ワークショップ

[資料 2-4] HP の修正と英語化について

[資料 2-5] 土木計画学研究委員会国際セミナーについて（報告）

[資料 2-6] タスク進捗状況

[資料 2-7] 平成 26 年度全国大会研究討論会参加申し込み（案）

[資料 3] 学術小委員会報告

[資料 4-1-1] 土木計画学研究委員会 春大会運営小委員会からの報告

[資料 4-1-2] 発表プログラム（案）

[資料 5] 土木計画学国際展開小委員会活動報告

## 1 開会

- ・ 谷口委員長より、開会の挨拶が行われた
- ・ 前回の議事録が確認された。
- ・ 議事録に関連して、屋井学術小委員長より 100 周年ビジョン策定特別委員会に関する意見聴取の依頼（4 月 30 日締め切り）があった旨の報告があり、「活動報告・中期目標対応」担当で原案を作成することになった。

## 2 学術小委員会

- ・ 屋井学術小委員長より土木学会論文集特集号について、205 編の投稿があり、書式不備があった 2 編を除く 203 編が査読中である旨の報告があった。また、CD-ROM の作成を廃止して、Web への掲載に一本化することを検討中であることが報告された。
- ・ 春大会及び秋大会の準備状況について報告された。秋大会の国際セッションに関しては、昨年通りのイベントを開催することは難しいと考えており、どのようにすすめるかは幹事会等で意見聴取しながら検討していくことが報告された。
- ・ 土木学会論文集通常号の掲載本数を増やすために、土木学会論文集特集号に投稿され修正意見の少ない論文を、通常号に投稿するよう推薦する方策の検討を始めていることの報告があり、幹事会に対して意見聴取があった。主に以下の点について意見が寄せられた。
  - 通常号と特集号の関係の整理について議論する必要性
  - 通常号にまわされた論文の査読スケジュールが遅れる危険性や、落とされてしまう危険性
  - 掲載料を分配される主体が異なる（通常号は土木学会本体、特集号は計画学研究委員会）

## 3 H26 年度の幹事会タスクについて

### ① 土木学会・国際化への対応について

- ・ 福田（敦）副委員長より、土木計画系の教員が海外（特に途上国）で教育を行う機会がなくなっているという問題意識のもと、海外（タイ、ベトナム、フィリピン、ラオス）の方に対して行われた土木計画学に対する認知、必要性、受け入れに関するアンケート調査について説明された。さらに、予算がついたため 1 月に日大の若手教員 5 名を派遣したことも報告された。先方からは道路工学や施工工学などの分野のニーズが高かったものの、Civil Engineering and Logistics に関する学科があるなど、土木計画学に関心を示す例もあることが説明された。
- ・ 以下のような意見が寄せられた。
  - 研究委員会の国際化について、昔から同じような議論が続いているが、ターゲットを絞る必要がある。IP（土木計画学）を海外に移出する前に、国内で IP の定義を明確にする必要がある。
  - 研究委員会で、海外で教える機会を作ればいいのか？ 学会で仲介することはあり得る。
  - 教員の海外での教育経験をまとめたリストはあるのか？
    - ◇ 海外経験に関する調査を行うことになった（福田（敦）先生担当）
  - 委員会として国際化にどのように関わっていくか議論が必要。アジアへの展開だけでな

く、国内の大学の国際化など多面的な検討が必要である。

## ② 計画学 50 周年事業について

### ・ 50 周年記念シンポジウム

- 交通系に関しては、前回の幹事会では来年の INSTR, ISTTT の開催時期にあわせて関西地方で行うことになったが、北大（田村先生）が北海道で同様のシンポジウムを企画しているので、交通系は北海道で行うことになった。
- 交通系以外の分野（都市計画、防災計画）などについても開催を呼びかける。
- 幹事会の承認を受ければ、国際セミナーに「50 周年セミナー」とつけることができることが決められた。さらに、「50 周年セミナー」とつけられた（一部の）国際セミナーに対して、幹事会で承認されれば開催予算の補助を行えることが決められた。

### ・ ハンドブック出版

- コロナ社からの依頼にあわせて、土木計画学ハンドブック（総計 800 ページ、2 万円程度を予定）の出版事業運営小委員会を設立予定である旨と、ハンドブックの構成案について説明された。
- 土木学会出版委員会にかけた方がいいのではないかという意見があり、また構成案については以下のような意見が寄せられた。
  - ◇ 景観については内容が多岐に渡っているため、執筆を依頼する内容を具体化した方がよい。具体化する内容は、佐々木葉先生に相談した方がよい。
  - ◇ 交通工学ハンドブックも既に出版されているが、交通工学ハンドブックでは実務の方が多く入っているので、学術的な内容を重くすることにより差別化が図れるのではないか。
  - ◇ II 編に含まれている項目で、I 編に移したほうがよいと思われる項目がある。（交通行動分析など）借り物ではない基礎理論は I 編に移して、II 編は応用編として分野、対象ごとにまとめた方がいいのではないか。
  - ◇ 土木計画学の発展の歴史を入れた方がいいのではないか。（左記意見に対して、土木学会 100 周年にハンドブックに含まれるのでないかという意見があった）

### ・ 委員会特別セッション

- 50 周年記念事業のキックオフ的な位置づけで、今年度春大会で開催予定。
- 「計画学の過去と現在と未来」という内容で、以下の構成案が決められた。
  - ◇ 土木史を執筆された先生にお願いする  
（交通：森川先生、宇野先生；土木計画：小林先生、藤井先生；  
空間情報：清水先生）
  - ◇ 屋井先生に 50 周年ビジョンについて
- 1 日目の第 1 セッションを 9:00～に移してもらい、第 2 セッションに開催することが原案となり、プログラム委員会に相談することになった。

#### 4 研究発表会の準備状況について

##### (1) H25 春大会

- ・ 研究委員会特別セッションを挟み込むために、初日の開始時間を早められないかを春大会プログラム委員会に確認をとる。
- ・ 計画学委員会を初日の昼食時間に行うことになり、福田（大）先生が部屋の確保、出欠確保を行うことになった。
- ・ ハンドブック作成に関する打ち合わせを2日目の午後に行うことになり、福田（大）先生に部屋の確保を依頼した。

##### (2) H25 秋大会

- (3) H26 春大会は九大で開催予定であり、H26 秋大会は概ね11月下旬に秋田大学で行われる予定であることが紹介された。

#### 5 平成25年度幹事担当タスクの検討状況報告

##### ① 活動評価・中期目標対応：真田\*、三輪\*（H26夏まで不在）、嶋本\*、井料、福本、藤見、織田澤

- ・ H25年度活動評価は5月中旬頃に委員長、幹事長に依頼がある予定であり、資料の分担通りに担当幹事で原案を作成することが確認された。
- ・ 100周年ビジョン策定特別委員会に関する意見聴取の資料の原案も担当幹事で作成する。

##### ② 本委員会対応：金子\*、福田

##### ③ 研究小委員会対応：井田\*、有村

- ・ 活動継続中の小委員会が13件あり、ワンディセミナーが2件実施された情報が追記された。
- ・ 航空交通データ活用WGを設立予定（屋井先生、平田先生）という報告があり、あわせて小委員会新設以降の有無および既存小委員会の継続意向についてGW明けまでに確認することになった。（有村先生担当）
- ・ 谷口委員長より、林先生がWCTRと土木計画学研究委員会との連携を強化したいという話があったことが報告された。

##### ④ HP対応：平田\*、三輪\*（H26夏まで不在）、倉内、藤見、織田澤

- ・ 既存コンテンツはHP担当が英訳し、ネイティブに確認をお願いする段取りであることが報告され、作業人員が足りているかHP担当で再度検討するとともに英訳のための外国人特別幹事を設ける可能性もあることが確認された。
- ・ どのページを英文対応にするかは、具体的な費用と仕上りの内容を業者と打ち合わせを行った上で決定することになった。
- ・ HPのCMS化は土木学会100周年記念事業の方では対応しており、再度可能性を検討することになった。
- ・ CMS化にあわせて、新規コンテンツ（委員長挨拶や国際セミナーの案内など）は日英両方で提出してもらうよう依頼するなど、HP担当の労力を低減する必要性が確認された。

##### ⑤ 国際セミナー：平田\*、藤見、織田澤、讃井

- ・ 開催実績について紹介され、Certificateをつけたいという要請があったことも報告された。

Certificate 及び 50 周年の冠をつけたいという要請があった場合は、国際セミナー開催報告に記載することになった。

⑥ 国際センター：嶋本\*

- ・ 次年度も担当幹事を置くことが確認された。
- ・ 海外で行った講義実績を国際センターに挙げた方がよいという意見が寄せられ、次回までにその方策を検討することになった。（嶋本担当）

⑦ ワンディセミナー・シンポジウム：真田\*，井田\*，井料，福田

- ・ 年度末に 3 件行われたことが紹介され、まだ行われていない研究小委員会に再度プッシュをかけることになった。

⑧ 全国大会研究討論会：金子\*，福本

- ・ 準備状況について報告があった。

## 6 その他

- ・ 次期委員長は、東北大学の桑原先生を推薦することが報告された
- ・ 次回幹事会は、桑原先生の予定を確認する必要があるが、全国大会中の 9 月 10 日の午後に学術委員会と合同で行われることを案とすることが確認された
  - 10 日の夕方（16:45～18:15）に討論会が計画されている

（記録：嶋本）